

テーマ

障害があると
皆と同じ学校生活は送れないのか

茅澤怜誠

きっかけ

障害を理由に入園入学を断られたことがある。人と同じであることや、何かができることを条件とされた。

自分のことを何も知らない人達に、障害があるというだけで他の友達と同じ学校に自分だけ通えないと決めつけられるのは、とても悲しかったしおかしいと思った。

理由

そこで、家ではいつも人と違うところやできないことは工夫をして普通に暮らしていたので、家でしてきたように様々な工夫を用いて学校生活を送って、自分が本当に皆と同じ場所にはいられないか、障害があると普通の学校に通うことができないのかを明らかにしようと考えた。

調べ方

- 個別支援計画を立て方針を共有

- ①実際に入学し、皆と同じ授業を受け同じ生活をする。
- ②学校に必ず諦めずに同じように参加してくれと頼む。
- ③先生や友達以外の人達も巻き込み皆で考える。
(リハビリ、放デイ、地域の人、店の人、相談員...)
- ④参加している時、自分が困ってる事をきちんと伝える。

わかったこと

- 小中学校9年間の調査結果

学校生活は皆と同じように送れる。一緒の時間が増えるほど工夫の数は増える。そしてそれは主に5つに分けられるのではないか。

道具の助け

- リフト付バス
- 歩行器
- スロープ
- 大きな机
- スライダップ
- 折りたたみスロープ

いろんな福祉用具を使う。
時には市役所をお願いに行った。

ピアホピア

- 習字介助
- 他学年交流
- 入場
- 証書授与
- 代読
- 代筆

できるだけ近い存在によるサポートの事。
大人はそれを邪魔せず見守る。

とことん一緒の 気持ち

- むかで
- 待っている
- 部活
- 役割分担
- ピラミッド
- えろじ

ぼくだけやらなくてもいいとしない心。
又は過剰な扱いをしない。同じように。

評価変更

- 専用ハンドル
- ほくの字
- カド登録
- 他の乗器
- 大きな針
- 安全帯

授業の評価の変更。
自分なりの参加の仕方を認めてもらう。

ルール変更

- ほくの路籠
- 長なわ
累計方式
- 体育の
ルール
- きのうとび
とび方教坊
- 制服免除
- マスクの
代わり

守れる、参加できるルールに変更。
ルール変更は恒例化している。

考えたこと

- “障害の社会モデル”という考え方

学校生活を送って感じたことは、自分に障害があるということは何も変わっていないのに、周りができるないと決めつけず変わってくれることで、自分が全然困らなくなっていくということ。

友達から以前「りょうまくんは私達がいたら何だってできる」という言葉もらったことがある。その通りだった。

りょうまくんの 学校生活どんなだったの??



楽しかった

- ◆ いろんなことも当たり前前にチャレンジをした。
 - ◆ 始め戸惑っていた学校には「必ず諦めずに同じようにやってみてくれ」と頼んだ。何度も頼んだ。
 - ◆ 困っている事はその都度きちんと伝えた。
 - ◆ 担任やクラスの子以外にも、多くの人に関わってもらったり、一緒にやり方を考えてもらった。(校長先生、教頭先生、同級生、他学年の子、療法士、医師、放課後デイ、卒業生、保護者、近所の人、地域の人、障害当事者の人、お店の人...)
 - ◆ 個別支援計画を立て相談員(福祉)とも方針を共有した。
- 一緒に時間が増えるほど工夫の数は増えた。
この仲間となら何だってできた。

支えてもらった変わってもらった

いろんな道具を使った

スロープ 歩行器、車椅子用の机等、福祉機器を使った。
教育総務課にバリアフリー化をお願いしにも行った。



スニアシップで移動



リフト付きバス旅行

評価を変更した

みんなと同じ事ができない場合もある。そういう場合、先生達は柔軟な対応で僕なりの課題に変えてくれた。
評価のポイントを変えたり評価法も柔軟に変えてくれた。



握れる包丁で調理



解答はカード選択

ルールを変更した

守れる、参加できるルールに変更してもらった。ルール変更は恒例化。僕だけでなく全員にとってそのルールはどうかと考えている仲間だった。



制服免除似た服で



リレーは走れる距離

とことん一緒に気持ち

りょうまくんはできないね仕方ないねとはせず『りょうまくんはどうだろうか』をいつも議論してくれた。



フール掃除



ピラミッド

ピアtoピアで

専門家や資格のある大人に頼っての生活ではなく、できるだけ近い存在によるサポート。大人は邪魔せず見守る。

友達が僕の事をよく知ってくれて、新しく来る先生や友達に説明してくれた。



他学年とも繋がる



平地移動は友達

違っていても一緒になれた

多摩市市民企画講座 に参加しました!!



出発前。皆に自分の学校生活を知ってもらえる事が嬉しく、大張り切りの様子。学校の良さ伝えたい。

みんなで学ぶ 考えました

インクルーシブ教育とはどういうものかの講演や、ぼくの他にも、普通学級に通いたくても通えなかった人の発表も。友達と過ごしたかったと話していた。なぜ大人は勝手に障害のある子供を別の所にやるのか。分けないで!! 学ぶ場所を分けるのは差別。日本は国連からも指摘されている。インクルーシブな社会は学校から始まって行く!!

第一部 講演

ぼくは学校生活を紹介

～友達いっぱい、できる事いっぱい～

学校って、すごい!!



学校のおすすめポイントを発表した。色々なチャレンジがある、友達がたくさんできる、勉強が楽しい。ぼくが学校が大好きな訳は皆に伝わったろうか。



事前練習を重ねて挑んだ自己紹介大成功!

学校は皆のもの

誰かが弾かれている社会はおかしい。誰かが弾かれている学校だっておかしい。『障害があると普通の学校に通うのが大変』そんな普通の学校っておかしくない? 皆が通えるようにを考えぬけば誰もが困らない学校になる。学校は皆のもの!! 学校を皆**確信**の手で変えていくべき。静岡だって。

第二部 対談

多摩市教育委員会も一緒に



多摩市はインクルーシブ教育に力を入れていこう。皆と一緒に学ぶ為には何が大事かを話し合った。その子の為を思って違う場所で学ばせるのはおかしいと確認しあった。



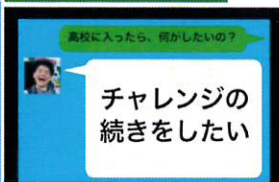
自分の学校紹介のスライドを見て、友達に囲まれていた頃を思い出した

もう一度取り戻したい一緒に学ぶ日々!!



静岡でも 高校で学びたい

高校を目指すりょうまくん



東京都は、定員内であれば誰でも高校生になれる。他にもそういう都道府県はたくさんある。